

## 第7回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇実施日時 2022年10月13日(木) 19時～21時
- ◇方法 ZOOMによるオンライン開催
- ◇参加者数 30名
- ◇内容 単元構想案の相互検討③

### 【ルーム1】担当：中村友弥

(1) 梅原彩華さん(音楽教育専修3回生) 宇治市の小学3年生を想定

音楽科 共通教材 茶摘みを導入に使った授業

みつめる 茶摘みを聞いてイメージを出し合う。

しらべる 茶摘み体験や実際に茶をたててみよう

ふかめる 宇治茶に携わっている人の話を聞こう

ひろめる 宇治川祭りのように、地元で大切にされてきたものが他にないだろうか

### 【主な意見】

- ・まちの特産物としての宇治茶に注目するのが良いと思う。どのような方に出会わすかが大事。
- ・音楽としてではなく、総合として指導案を書いたほうが良い。

(2) 後川りのさん(音楽教育専修3回生) 小学校中学年を想定

おんまつりの歴史や伝統について調べよう

おんまつりの保存会など、おんまつりと関わりのある人は多いので、どの方とどのように出会わせたらよいか?

→おんまつりに関する切り口は多数ある。流鏝馬、春日大社、雅楽など。

→最後は、地元のまつりに注目するような活動にしてはどうか。

(3) 藤本さん(音楽教育専修3回生) 奈良市の小学6年生を想定

音楽科 共通教材 「われは海の子」を導入に使った授業

みつめる われは海の子を聴いた感想や歌詞の意味を調べて考えたことを出し合おう

しらべる 現在の海の様子を調べてみよう

ふかめる 海岸でごみひろいのボランティアをしている人に話を聞いてみよう

ひろげる 海の環境を守るために自分たちにできることは何だろうか

### 【主な意見】

- ・歌詞の意味を考える導入があったから、最後に歌詞に注目して歌う活動があってもよいのでは。
- ・海の魅力やすばらしさに子どもたちが気づくような活動も考えたらどうか。「海は汚れている。だからきれいにしよう。」だけではもったいない。
- ・海なし県の奈良に最後はもどってくることにもっと焦点をあてても良いと思う。

### 【ルーム2】担当：河野晋也

(1) 福西隆生さん(英語教育専修3回生)

国語・総合・英語・社会(高校なら英語、中学なら総合ベース) 「物語を翻訳してみよう」

生徒にとって身近な物語を題材として、「なぜ様々な物語が今まで伝わっているのだろう」という問いから、知っている物語の発祥や伝えようとしているメッセージなどを調べ、アイヌの物語など消えてしまった物語に着目していく。単元の終末には、様々な物語を未来につなげるためにはどうすればいいかを考えさせていく。海外の物語と日本の物語を比べながら見ることで、それぞれの国の文化や表現の特徴などを学び、尊重する態度を学ぶこともできる。また他言語に翻訳することで、自国の文化を発信することにもつながると共に、どのように表現すべきか他国の文化や慣習に配慮する重要性に気付かせていきたい。

#### 【出された意見】

- ・世代間のつながりを意識することができるし、その国の文化を配慮した翻訳という考え方が素晴らしいと思う。
- ・翻訳する際には、他文化に対する配慮から、オリジナルの表現を変えなければならないこともある。そのことによって、オリジナルの物語の良さが失われたり、その物語を培ってきた文化やその国の人々の感じ方が伝えられないということも出てくるだろう。この点を考えさせることも、学習の核になると思う。
- ・すべての国に共有されている物語を導入にしていくのもよいのではないか。
- ・どのようなことを学ぶ授業なのか、何に気付かせたいのか、という目標がいくつかも含まれている気がする。うまく整理できれば、より筋の通った実践になるのではないか。

#### (2) 西田有佳里さん（特別支援教育専修3回生） 小学校6年総合「障害って何だろう」

障がいがあることについて、知っていることを出し合い、障がいの意味について調べていく。障がいのある人の生活やパラスポーツを体験したり、障がいを持つ人の話を聞いたりしながら、「障がい」とは何か、「障がいがあるとはどういうことか」を学んでいく。見方によれば、障がい者として認定されていなくとも、多くの人がそれぞれにどこかで誰かの助けを求めているということに気付かせたい。

#### 【出された意見】

- ・センシティブでありつつ、重要なテーマを扱っている。健常者と障がい者という区別でとらえるのではなく、誰もが誰かの助けを必要としていることに気付かせていくことが重要だと思う。バリアフリーという言葉ではなく、ユニバーサルデザインという言葉が使われていることも一つのヒントだと思う。
- ・授業者の強い思いが感じられる実践だと思った。この学習の後に、子どもたちがどうなっていてほしいのか、「育ってほしい姿」がより明確になって、言語化されるようになっていくと、展開も明確になっていくと思う。
- ・終末は、「ぼくたちにできることはなんだろうか」という問いについて、上滑りしないような工夫が必要ではないか。

#### (3) 川口綾菜さん（英語教育専修3回生） 中学校2年生「外国人にやさしいまちづくり」

まちにくらす多様な市民に目を向け、その中で外国人にとって、いまのまちが住みやすいと言えるのか、外国人にやさしいまちをつくるためにどうすればよいか、を考えさせていく。ALTなど身近な外国人の体験などを聞いた上で、街に出かけることで、今まで気づくことがなかった課題に気付かせ、課題を発見させていきたい。そして、外国の人にとってもやさしいまちにしていくために、できることを考えていく。ただ、外国人にやさしいまちづくりというと、言語の問題に集約されがちだが、決してすべての外国人が英語を話せるわけではなく、外国の方が抱く不安感は言葉の解決だけで解消されるわけで

はない。その点に気付かせたうえで、どのような解決が望まれるのかを考えさせていく。

#### 【出された意見】

- ・私たちが違う場所に行った時に、「特別扱い」をされるとコミュニティに入りにくい。インクルーシブなまちづくりという考え方が子どもたちのなかに共有されていくとよいと思う。
- ・外国の人にとってやさしいまちは、先の西田さんの発表とも関係するが、自分たちにとってもやさしいまちになると思う。自分たちがどんなまちであってほしいか、どんなことに困っているのかを考えることも、きっかけになるのかもしれない。
- ・その上で、外国の人という、成り代われない他者の視点にどうやって立たせるかが重要なのだと思う。
- ・人が生きていく上で、生物の多様性は不可欠。どんな生き物も多様性のなかでなければ生きていけない。外国の人がいることで、まちの良さも引き出されるだろう。そういう点に目を向けることも重要だ。
- ・外国人という固定概念を少なからずもっているかもしれない。そういうものを一つ一つはがしていくことで、「外国人」というひとくくりの枠組みで考えるのではなく、「様々な、多様な人」というインクルーシブな見方ができるようになるのではないか。

#### 【ルーム3】担当：圓山裕史

(1) 松岡花さん（音楽教育専修3回生） 音楽科 小学校3年生 「茶つみ」

- ・歌詞にでてくる「八十八夜」、「あかねだすき」など茶つみにこめられた思いなどに触れながら、歌ったり、手遊びをしたりするような学習の流れ。
- ・そもそも「茶つみ」がどのようなものであるかも知らない、見たこともない児童も多くいるであろうことから、昔ながらの「茶つみ」の手法やその大変さなども知り、情景を浮かべながら歌唱・手遊びができるようにしたい。
- ・音楽科の授業というところからも、最終目標としては音楽表現で終わるようにしたい。

(話し合い)

○松岡さん

- ・内容が多すぎて、1時間で終われないのではないか。(本時の指導案と勘違い)  
→単元の構想なので、1時間で終わる必要はない。

○メンバーから

- ・「調べる」のところでは手遊びをすることで、茶つみの動作などを感じることができるのではないか。
- ・機械化されている「茶つみ」ではあるが、古葉や茎が入らないように手摘みで品質を高めている場合もあるところからも、手摘みの良さも感じられるようにしてもいいのでは。
- ・音楽として完結するような流れでいいと思う。
- ・和食とともに世界でも注目されていて、フランスなどでは抹茶のスイーツが人気であるなど、お茶が世界にも自慢できる日本文化であることも触れてみてはどうか。
- ・余談であるが、お茶の木は世界中同じで発酵のさせ方で紅茶などの違いがある。

(2) 森恵里奈さん（音楽教育専修3回生） 音楽科 小学校6年生 「だんじり囃子」

- ・学習の流れは、鑑賞から始まり、だんじり祭りやだんじり囃子について、体験やゲストティーチャーからの話、映像などで見て知っていく。
- ・その後、だんじり囃子のリズムを演奏してみる。その際は4つの楽器ごとに違ったリズムを奏でたり、失われつつある伝統的な「なみ足打ち」を練習したりすることで、伝統を受け継ぐとともに、音楽会な

どの機会を使って、広げていく。

・音楽の授業の中では、実際に使われる楽器は十分な数が用意できないので、自作で段ボール箱など代用品を使う。

(話し合い)

森さん

・音楽と地域をからめた授業展開をしたかったので、大阪のだんじり囃子を扱いたかった。

○メンバーから

・導入で映像に合わせてなどの方法を取りながら、上手くいかないだろうけどとりあえずやってみて、音楽的なリズムなどを学び、その後、演奏をしたときに「合わさった!」「気持ちがいい!」と感じられるような流れがいいのではないか。

・学習のメインをはっきり持っておいた方がいい。この場合で言うと、「リズム打ち」かな?

あくまで音楽の授業としてするので、あまり総合学習のように調べることをメインにしないようにした方がいい。

・音楽的にも、鑑賞→器楽演奏という流れがいいと思う。

・伝統的な「なみ足打ち」を受け継いで、つないでいくようなイメージで ESD 的な面もしっかり押さえられると思う。

【ルーム4】担当：大西浩明

(1) 長浜佐知子先生 (奈良市立都跡小学校)

小学校3年生総合「みあとの祭りカレンダーをつくろう」

3年生の総合「みあとのたからを伝えよう」(40時間)のうちの小単元

第3学年では「自分の生活と文化の継承がつながっていることを考えられる子ども」の育成を目指す。

コロナ禍でほとんどの祭りが中止され、児童には存在感が薄れている。

①事前に行った Google フォームでの祭りアンケートの結果のスプレッドシートから、自分の担当部分をスライドにまとめる。

②ふれあい会館に行き、お年寄りからお祭りについて教えてもらい、教えてもらったことや考えたことをスライドに書き足す。

③学級での交流会を行い、学んだことをポートフォリオにまとめる。

後日、出来上がった祭りカレンダーとポートフォリオの感想をまとめたものを、ふれあい会館に持って行ったり、学級通信に載せ保護者に向けて伝えたり、教室前廊下に掲示したりする。

(話し合い)

・3時間で終わらない分はどうするか。

→ 家庭学習で自分でどんどん進めていけるようにしたい

・祭りの持続不可能性(途絶えてしまう)について、考えさせたいが。

→ 名前だけは聞いたことがあるがよく知らないものが多い

まずは祭りについて興味をもって調べることをさせたい。

・学習のゴールで子どもにつかませたいものは?

→ 人の思い、人の営みがあるからこそ祭りが続いてきた

そこが「たからもの」であることに気付かせたい。

(2) 北野結衣さん(社会科教育専修3回生) 小学校4年生社会科「高知を水害から守る」

1998年の高知豪雨では、大きな被害が出た。

洪水ハザードマップを見ると、潮江地区は多くの水路があるので氾濫する。

誰一人取り残さない防災について考えさせたい。

社会科として、ゴールは「未来への備え」「自分たちにできること」

ゲストティーチャーに話を聞きたいが、98年の豪雨は地域が違うのでどうしたらよいか。

(話し合い)

- ・デジタルの新聞記事でも用意できないか。
  - ・ハザードマップをたどるのはいいが、自分の体のどこまで浸かるかはイメージできないのでは。
  - ・水がどこまで来たら危険かを実感させることが大事かと思う。
  - ・社会科としては、災害時の関係諸機関の働きをおさえる必要がある。(しらべる段階) 公助
  - ・その中で、救助に当たる人たちも命がけでやっていることを捉えさせたい。
- 4年生としては、最低限「自分の命は自分で守る」ための方策をしっかりと考えさせたい。 自助

(3) 木村直希さん(心理学専修3回生) 小学校6年生総合「桜の歴史を通じて佐保川を知ろう」

佐保川小学校は目の前に佐保川があるが、その歴史や価値に気付いていない子どもが多い。

1年生から様々な題材を通して佐保川に触れてはきているのだが。

堤防の桜を目当てに多くの観光客も来ている。

ただ、マナーの悪い観光客もいる。

(花見のごみをそのまま、立入禁止区域に入る、外国人が枝を折る など)

桜を守ってきた人たちに思いを馳せる ボランティアされている方との出会い

学習のゴールをどうするか 新聞にまとめる

(意見交流)

- ・中心課題(核となる問い)を明確にした方がよい。
- ・観光公害という側面から考えていくとよいのでは。
- ・1年生からの佐保川の学習を振り返ることから入るとよいのでは。
- ・地域の人は桜に対して誇りをもっているはずなので、マナーの悪い人に対して何らかの思いはある。
- ・まずは子どもにごみ拾いをさせたい。そこから思いが生まれるはず。
- ・立看板をつくったり、新聞も大人の人に訴えるものにつくったりすることが大切。

【ルーム5】担当：中澤静男

(1) 高垣有貴さん(美術教育専修3回生)

小学校6年生社会科+総合的な学習 「教育と平和」

①途上国における就学率の低さの理由を知る

動画等による途上国の現状を視聴する

学校に通えていない子どもたち 親は子どもが通学するよりも働くことを希望している

JICA等海外勤務経験者をゲストティーチャーとして招聘し途上国の親の教育への理解を進める

取り組みを教わる

②学校教育に効果を考える

学校教育にはどのような効果があるのか。自分たちの変容を認識する。

また、保護者へのインタビューを行い、日本の親が考えている学校教育の必要性を認識する。

③学校には行った方がいいという観点から、世界の子どもたちのために自分に何ができるか

【話し合った事がら】

- ・保護者へのインタビューをどう使うのかを考える。

保護者は学校で何を学んでほしいと思っているのか

どのように学校で過ごしてほしいと思っているのか

- ・発展の発問で、「世界の子ども達のために」とあるが、日本の小学生が本当にできることは限られている。ここでは、道徳との関連を意識して、自分自身の学校におけるライフスタイルを問い直し、行動を変容していくという学びにする方が、行動化を期待できる。

保護者へのインタビュー → 自分の学校での過ごし方を問い直す → これからの学校での過ごし方を話し合い、観点を抽出する。→ 自分が取り組みたいことの優先順位を考え、「いつまでに何を達成するか」というリストを作成し、宣言する。

後日、リストを振り返り、行動化の継続を促進する。

(2) 木下結等さん (教育学専修3回生)

小学校5年生社会科「海なし県海善(かいぜん)プロジェクト」

奈良県の小学校での授業化を想定。奈良県は海がない県だが、海洋汚染や海洋プラスチックゴミ問題、温暖化、海洋酸性化等の問題と自分たちが原因面・結果面において関わりがあることに気づかせ、自分事化させたい。

①100年後の寿司(サスティナ寿司より) →ほとんどシャリしかない

→ 自分にとって身近な生活にも影響が生じることを知ることで切実感をもたせる。

②海を守るために自分たちにできることを考える

マイボトルを使用することで海洋ペットボトルゴミを減らすことができる等

③海を守る実践家をゲストティーチャーに招聘し、自分たちが考えた行動化で、本当に海を守ることができるのか(効果があるのか)を評価してもらうとともに、どんな実践をされているのか教えていただく。

→ 自分たちが考えている行動化を再考する

→ 大人や地域を巻き込んだ実践をする必要がある → 巻き込み・実践の行動化

【話し合ったことがら】

- ・導入について：養殖漁業が増えているので「ほとんどシャリだけにはならないだろう」

養殖については、水質悪化や薬品の多用による魚肉への悪影響という問題が発生する

マイクロプラスチックを食べた魚の汚染、人体への影響もある。

→ どのような問題があるかを出し合い、グループあるいは個人で調べ学習を行い、情報交流する時間をもって、クラス全体で共有するとよいだろう。

この学習段階では絞るのではなく開き、単元の終盤で絞り、深めていく。

- ・海を守る活動については、家庭排水などのきれいにしてから海に流すことに取り組んでいる浄化センターで働く方へのインタビューもよい(4年生の社会科での学習の振り返りにもなる)。

- ・自分たちで考えた行動化について専門家からアドバイスをもらい、問い直すのはよい。

- ・海へは川のゴミが流れ込んでいくことから、川と海のつながりを意識させることで、自分たちの日常生活・ライフスタイルとの関わりが実感できるだろう。

- ・巻き込み・発信・他学年への協働依頼などでは、動画配信がよいのではないか。

(3) 宇和谷紗恵さん（家庭科教育専修 3 回生）

中学校 2 年生家庭科+総合 「大和野菜について知り、広めよう」

①日ごろの食生活を見直す

内食・中食・外食

色々な地域・国で栽培されたものを購入している。おいしさで選んでいる。値段で選んでいる。

→ どのような育てられ方をしているのか、フードマイレージといった環境負荷、また栄養価・安全性などについて、ほとんど気にかけていないことに気づく。

地産地消（既習）のよさについて再確認する

②地域でとれた栄養価の高い食材を食卓に並べるにはどうしたらいいか。

大和野菜について調べる

例：大和丸ナスのよさをアピールするためにレシピを考案し、提案する。

【話し合った事がら】

- ・家庭科は教員の思いが大切。大和野菜を知ってほしいという思いが伝わってくる。
- ・地産地消に生徒の意識を向けさせるために、教室にスーパーのお惣菜コーナーから地産地消を意識したお惣菜を持ち込んでどうか。なぜ、わざわざ地産地消のお惣菜が販売されているのか（あるいは、そういうコーナーを設置しているスーパーがあるかもしれない）、から地産地消へのニーズがあることを知り、その理由を考える、インタビュー等することで、地産地消のよさを復習することができる。
- ・導入に給食の献立表を活用する。給食献立表なら、生徒全員に関係があるし、全員に共通する資料になる。献立表には産地も記載されている。また、地産地消を意識されているので、そういうものがけっこうあると思われる。
- ・附属中の先生の指導案と宇和谷さんの指導案の区別がつくように、オリジナルのところと参考にしたところを明記してください。